鼓湯情文二篇

へ13
2132
88

文鳳堂
△山津伊
へ13特
2132
88
88
齋藤庫

清き契り奇談 妓媚精子 巻の下

鶯蛙山人 作

新吉原柳屋が奥二階の光景

花ちるさかりの月は隅田川のながれをこがるるものの心と。
雙ぶが岡の法師乃書ちらしも。むかしかたりけらく。浦〻の色墨乃中ゆとるとつけ
あのひとの。ふと柴ゆふる花一ト枝の人。夜話
ひとくさぐきの。寄メ社会の先がけ 時

絵あハちらぬ花のちぎらし柿ても愛
きせるん露の盃みてらくの羽の白粉や
小町紅ゆゑ出かけ来の墨通ひ千とせ
中の町ぎらぐの内を二筋道でらちくそのも
ふらる色雨と日和のまんどの窓あけしの
枝もあきものをゆゑみまぐへて格子のぎろ
りその座敷の内家のなかもむかしのかたおどり又一味のうけあ
棚のうへは琴三味線すの基だんのくすだまの花のけふもらんぞうけらむま
和歌の歌集をつくるやくのそねを挙さしてまへしらんまのさう

下ノ壱

勝た さる丁の伊三うの御金がゆるがへ来せるのふけそあまと光琳の
松の縁さんざう 高瀬 とかふろのむろへに里花へ女郎のし中一組清瀧
寿作その外大ぜいゆてさらさらやへきこてあひがてのむつかしん高尾
さんざうをむかふに中やしくん茶屋のざしきがいしやのさうざうてへ
お宝りるまでゆかに暑入清瀧へ部屋持の 室川 ときまり揚さけ
あけさんざうゆてきりあけ羽あく床もおさまると 三保 おし床を
ひのて案内のところまでびきさくとりかそて里花をつがしれ
ふうさうけあつてのところおがみて丈長でたおをうけそてちりまかし
秃のうくふくをうけそろく
あやまみつぶらんのうくふすて 高瀬 おいらんよく連すて
おくんるのんした。ありがたうよ。新せさん
又 三保 京町人たびたび客人くく来りましさ。
ちらくもおかんよう おさんがまへになら 高瀬 せから

なりあるじよろしてあまんまさへるト のびるがら ただこゑを吸
身て出し屏風引廻し【みな】旦那(だんな)のしへ。みな朝(あさ)もいつもの時(どうん)から
でなかしらゆゆりやよほの子【里花】さてさての
津のりくぐ籠(かご)る孫(ご)を【みな】せうちゆうしよしさ。
まのたる人さんよなしく【三の浦】なりしんへ(モウ)ぬららろ
なやるか【おこ孫へせうど引ヶ立たちるまちとおの喜ぎんく
是よりこの浦ちやちらしてあめをうりげさせ】
あまりのさぎりぶさやおくろごろみをこふぐみめたちくろ
やぐの下さぎてる人入あまのおまんなのおかどのおてんごちら会ぞ
ちふろをねりしみ出りあの至も只し夜ぐさ
きてそちらへなりとなちらかなるゐゴウく【三の浦】モシへよく

寝(ね)るまんまをねへちらてと。あきころんし。ちらちら細(おぞ)う
あきころる【里花】津ん思(おも)うておもよぞ一ト孫(ひ)入
しさがてめへもきましおなかちなねへうち。
がうせんゆゆ出られさが。宮(さざ)あて葉(らん)様(てう)が変(こと)
を若(く)ふやんでぐつう。ひと通(とお)りの病(びやう)気(き)とれ
見へ孫へ【三の糸】ヨヤうんみんしておくんあんし。
あんぞとりかと。髪(ぞう)さんのてをいうら忘れるが
どんなこうの中のなまむしでもぞうくら

はつでもいらもんせんのさぞいろも若衆姿
たのしみとアもんをぐさまんざふ身づまりふ
るまんものをきりつぐさいのものきりもん捨
てもせもんもあるもんまるる里程さうとも〳〵。
まるこのもざきろてい色男の堪能ふさまて所
ゆうるものの。今さら一文風のきれるゆうふ
しもんあんまりゆせいゆらうのもるゆうる
仕事でトハいみものの里程おのりろくるいの女

下ノ三

ゆうだとおさげしみるん せうが。そのあが若
衆ぶとめうおしもんがうしておくん
るんし。ぬしの新の法ぶまるゆうるも
もんさもあんうら里程ものもくしけぐ。そを
内ゆを髪のゆらうをるるのふ。一新のもち
もんみみもるさをがし。れ名代を出ゆう
とりの形でもるまるくぶんのうるの
つまぐ突出しへものぐ里程ものもとぐもくもどをらぬ
ゆうでもるを三ツとんく

成わどさうこぶひのあんまとめあつともざんま
ご。そもそもおまへさんでもおざんせん。おねへさま
病まあぐけりうらも姫の内のおもり護衛
をいてきんまも。今一度本復をしてく
ぬーとりうあるる鞍一人半りでをぢ
よく稽古でもこんしー。長さんあれおそ
さんとりうあるさんがあるさんをつるる[国記]ト
りうくうまてーげさあとで笑うのう。女

房おりゆもわもめのうっとりうくうおも
あるうる。そんる稽古りでりくりさん
ぢゃア稽古[トボー表]おそりう[国記]るぜそ稽古は
ぐちふるうらーんくさらう。世の中は義理と
ぐうそ。さう稽古動へうてあんしてもあーく
かううけてあうんをぬーをまでとあ
ひくせんでりうくうまをあうくあ
されんせうう。長さんだんく一朝りうタは

ちゃくわるくちんせんがおくやさんもげんれ
ちゃ勘の内々のいろぐ。女房ふるうんく
して。一日片時もあまでひとりのひるん
ちゃと寝を稼へとの。モウせうるいくらいたら。
それを吸てまぢく〳〵と浮家らく〳〵
だそうく。人の思ひもあるんしるうどうまあ
切まぐふいらまんせう。陽ゆきさんのいろ
の恋人あるんしゝと揚代み。おくやさんが浮川

とあらん人法とあるは出るるんして家屋の拂を
相あんしゝとの事。さとれべあくやさんを
くらやさんやらさもくゝがとぶ。のうひ
出しゝてもおくんるるんしるる里程ハテきたれ
ゆひ切ゝとうぐ。ちゝいろ男とりるのん
罪のあるひのぐ。あんか義未の花ぐといろ
て。紫鯖もそんるる真紙しゝて浮ぶ影を
稼へゝてあくもくろ法のつゝとある家のある

内をまぶかせぐせらりるぜんさう ろうらか
ぐ中らを年が明まして。まぢく居て居
てそてめんもきもめんが 若男 かあいを
年でざんきらら。私の年季をいまんしてきも
あくわさんをうけ出して。そのようぐともく
を 里程 それまであるつれ行ていろう馬鹿しい。
五六力でハ嫁と時見の赤をまてとりつが。小に
賛ふ居らげくちるまで。まぢくしくしくも

下ノ六

居をめいちくきを麻ゆのつたらべ。お宝と
中らを待出さるを 高の条 イヤエ ぶてあら
いんきあひ。めも男でざんせう。男いとう
白いろ。ふくろひとうふ長さんの方をこけ
を牛蒡人角を大まるものうを 里程 なんの
麻らがうめ。五十ウ百の月くをを金出く
中りまひ物でもるのいが。戸まま一脱の形の
が家ふくうとねん 高の条 そのりめのらぬ。あを

みるんしート うぞ紙ぞうこまりて
里花のめさえたさうなる 里花 ヤアとれハ妹と
いへ家をゆきとゝて〳〵。安といへ家めハ二世命を
閉ぢしハ 与系 おまへの家の妻あらぐひたるして
かるうのとゝめしハ思うてくんあル 里花 そん
あらこゝ家ハ二十両マア紙をとうとくあるさや。
あとゆぐるハ参ゝて ちゝしやト紙ぞうこと
うまてうざんを見て ありてこゝせべ 与系
里花 シカシあるぐ和の名をぞうしてあへマア

下ノ七

あるうこと 与系 あるうゆ変をあうせのすゆわさ
男の名ざんをゆ紙マアあるちゝんん
るんし 里花 あんだのうぐうひゆそ稲へゆ
あ紙のまゝと。ゆるうと体ゝやナおまも
ゝうゝ入らう 与系 あまえそんあるをいのゝん
と。嗜つきんきあへト参へ 里花 それぐといへく
与系 ようあのるゝト 里花 ぐをるくとその角もの
きうとぐざん 里花 大イぶ稲川

あるさまで。どうもうつくしきあたてうん園
あれさ馬 麻くらしのせうぶんを考るに
さてつありのいろあめあるよりあるつくつく枕のあぎきちくく
作者もこの一段は屏風の外で立へ
評曰 女の髪ほどてよりる綱ゑん。大象をも
ほるぐと。実ゑあそろしきを深淵のひろ
あつて。ほくしゑ。あのり麻さのまま一ん。
ゑゑあるで。里接のめさを己の身を考る
とて。代を茨れどくゑゑみがゆ人。傾城の

まと紙ほうとるつ。さるふゑんてる昔の
つるのゑへ。嵐のあぶくけ斗りとゑんくおさ
紙くゑん笑の ゑるさのある夏成ちくど。鳴采
後世あそる麻。妓楼のちん 膳一朝ゐ
かるる麻ゑくど。ちゑゐ又清盛のあのぐおき川のへ麻ゑ
ぞうのあのきとゑあのゑ ひけるちゑるゑて高笑もまりるど。ちん
あるまり麻のゑるさるゑ めちゑらさるのゑるあるゑ
ゑとゑくゑ 天げ山 ゑ
あのぐのじん
ぬくくゑゑくくしゑ。のきゑく人がる

[illegible]
用意があるらう。あさくさ人形まつりとさぞ[illegible]
かうあるべきものとまるんしとまうちんしさよ
[illegible]川ヲヤいろのまふ場ふしんろうさんたろう
[illegible]ちらんぞ。アア一ッあんちんせんう。
おちらうるんしる[illegible]山ありがたうあとトざきん
[illegible]のうせまの不夫
すをつけざ〜〜[illegible]とふその物をらうと
[illegible]回しねん[illegible]川うんあんしておくんちんしト
[illegible]のうぐうぐうと
のんでぐさん[illegible]山とてあるふ見ふちん[illegible]

下ノ九

[illegible]ん（まつさうう）
[illegible]（まつさと）[illegible]まづいてぐさ女郎しゐと
[illegible]ふ。あいらぶ色[illegible]
の[illegible]ふうさぐ〜〜何丹ヨウうんてうう[illegible]川
[illegible]花さんの頭痛がちんとさうさ[illegible]
[illegible]〜〜[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]せうぐるんぐろそそぐもさんさうう
[illegible]大さあ[illegible]物ぐよようあぐりんと[illegible]
酒ぐものんでるんせんう[illegible]より[illegible]

あわ天竺がぶらくしてころころ【たぬき山】
あまるんるんし　女房ひざんまをぢ
花るんいあやうりあんでざんま【初花】ちよこ咲
ぢかるまぐあるぐ。あまを川さんおーぼん
でおくんるんし。ちげ　ぬさんみるぶまて
を。ホンニぬーがきさまるてらあんだいが
ふくるるんしこうら。ぶるぶありんせん
のさ【陸奥】サア大きいぐ露笑がふぐまを

下ノ十

流してあのめつ法きを泣くしてみるとへ
【ちとせ川】サあのひざをふつ
つりつりるぐら。ふくあくをいのるんをちつ
とだまんるんし【春笑】そまるんてろ赤ふれ
さいきぐ。時ゐあんまり夜ぐふけらァ
ちんと寝てるうぢやァ福へ。世間もさう
ざうしい【陸奥】きんく床式らそぐ中りの
【たぬき山】ふふしらもりてやまをみんせうぷん
ゐ寝まく笑式ろうさんあ中もまるろう

ざんねんなるぞ。そして是(これ)らのうちきたなきん人

[清駕] 二三百の肉(うち)がやアきれいと云やア [喜笑] ろせう

と語人でありへらさるめのうかう見(み)くし [喜笑]

おもろいぶどめの紙 [あさ川] きやよろしくござゐよ [千ぐ山]

そのはきろとつろ/\し此客人(きやくじん)を儲やして

おらんるんしよ [せの川] せうちく あるくだ

[千ぐ山] アゝぜうぜんきやア おかりせん。おやまとさ

るのんし トちうるむく出て行 [喜笑] そんなららきんかり

おきげり。なんもん小便(せうべん)とでかけ出る [清駕] ニウツト

待(まち)の人 壺(とう)海(うぶ)ろと おもても いりきよ火 ト立まよ出て行 [あさ川]

へおとをうかがけ あききゆてたち出ス [初花] らうかのろせうのおきうより帰るを待おのが

座の中へきてゆいわたる [あさ川] つやくとのつて行くせのがわあさ川の座敷の

ゆるのこゆわる 出し(び)ぶのそば見 たぞと女きられけて あし人寝(ね)がつて

がころらう おいらら [清駕] あきそでよし ろエト

語るわるあさと川も座人 [あさ川] るのんごろそと旅(んや)へいんそ

まかり出て(か)花をうけく [清駕] あんのじや おかりせんう あちらア きう語人

おやア 語人よのかご [あさ川] きうお出 宿うよ よきせのぶの枕のかへいのきめし人

あの奥ざ〜きのあいうんの家人ハ何家
ざんまるく 【せりふ】メレカ 義家ぐことよ 【ものと川】ヨヤだろ
らく〜ゆくくいらうちゆりあがらちんるん
せんう 【せりふ】三味線を弾ふいくかくの
ちうづくざうちうちとちくねんのさ
【ものと川】ぬ〜さこのものざんにくよ。ぜ〜〜く
あ〜〜さんの内うん 【せりふ】うちくしやるたさ
【ものと川】うそ式あはあるんし〜 きるの内ざん

せうらうもうんのんしさやうるト おーうんがくく
あの 家所の 小林やくいきるみきとうさくくハ
あるうんせんう 【せりふ】家のよハ形ことハあり
ませう。ぜひあハあいりやせん 【ものと川】そもでも
あまとまいくいうこ光ぐ内〜ぬくあるんをぐ。
ぬ〜式ぬくちうくあるんきちらぴうと
あがみぐもあらっちゆうちゆうとやうてさ
【せりふ】まこの〜系のとうこそどよいく

きものゞ　きもの川　いつそ長屋ゝゞきもとつゞ如ゝ
がるひらつひるつとさつゞこゝのくしこ
うらつこゝそうこゝうちゞこゝうきちら
ぬゝ紙屋ヤたるても因縁やゝうだの
ゝるのゝのゝもあるんすらゝ大きゝ苦労
ゝるゝんしこ　清酒　そらゝゝア難ゝこゝ
ゝめゝせゝゝんでくるきるゝ。苦ゝゝ
ゝゝくゝゝらア一すでも引きやア ゝる移人

下ノ十三

うちち
言ゝのくこうゝゝ。実情の移人のゝやァゝ人。
るゝぐかゝるゝゝ人情ゝあゝゝ　きもの川　ゝんこ
ゝ。そゝゝちゞゝあゝせんのゝゝらの因るゝァ
ゝァ変るんしる。ヤレ浅生を移ゝうゝゝゝゝ
とゝゝく。濃ゝゝゝうゝゝんゝ。ゝるゝゝう
ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝとゝゝゝのゝ。ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝとゝゝせんで。ゝゝて石
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ。日

糀とう月糀とうりてるを中まんと。
そして法ゆだとりてるもるおぐさの数
ゆぜんまりゆ法扇ぐらいがひゆさを
うん。女ゝ元の方うんせうゆの十格を
法うひゆ紙ちんもるる 医経 さうとん
でも行人ゆうも別世界でだまゆらの社
ゆゆも。せうの人乃る紙すてる数。とうん
ごゆぐうう。ぐゆぐ人情を知りてんびるの

高麗人戸出来る人うちさそれる花を
さるるのヤレ俳偕だの果紙をるのとりよぐ。
法さゆりてうんうとるんゆもるねくうん
る地大ぐ多イのさ 室川 それぐうら 源川
あうとん大ちぐ人で。法ゆけやるるやうや
ゆるう斗りかりてゆし。ちる果紙ひくと
やりる元や国徒の数もうらまんせん
つる 甘ちぐ 十二うまう 京人行人 鞍ぐとゆら

うまとがいて［おと川］こゝいらアあいちの泥(どろ)ゞゞも
のんざ御(おの)ゞぞろそろしんせいうよ［せいろ］奥(おく)ところ
あまべみとせう。その成(なり)そうさ腕(うで)すもある
めへののでも私へのさ［おと川］うまうしい私へア
三年(ねん)もあんざ狆(ちん)よろ式こんろ女ういふにさ
とえてことが。初(はつ)会(くわい)うらあんるせうてのしき
えんしてぶろのつぎさげきんでおくんるん
まるぷらいと寐(ね)んせうおやアおいせんろ

［せいろ］おまもるんごろふきのぐあざてぐ　いくるがら おと川の
あの頭(かしら)うすにて［おと川］めへいうそおまきのぐぐざんまちが
きてのへあんまとがよぅうおほんく［せいろ］よくうそ
を逃(のが)くぜんのそうきてもいやなるらよおそう［おと川］
ろのふつアいやをがあうんせうすもらがまあく
アらんしてまそいろう。あほうらサ［浄瑠璃］さえやどうふ あんまり
きれのまのアをきていまあきなむかのふとらえもみのまほど［すゞどのさいのせうてべやふ
あくびこうきくせうもとくりくくのあまえとん
わがけ［なむ］南無阿弥陀仏く
ことで［やくゐ］ 　　　　　　　　　　　［私どのだん那さま力づくくく］

七ツで おぢやれ まあ引く 左手へ〳〵〳〵〳〵 かへりて

寄笑へ出しへや ちやん 今そろ〳〵さとつめ入てくあんどうの火をとんで
の世まいとる 初花 ぎしでうきとて紙をちりくといそせたるを
を付かへとつて寄笑へ
分りそのまゝ 床へ入り 寝さうなん しらて ばくよ
りさん しつらまで 雨がふつて居んきとふナ
ふけりきる 寄笑 ふつても いゝ ぢや 御客へう
あん人のよふなりて さんく 気まてくる まよ
るもんでも 御人 初花 そうでとりて ぢやま
どうぞ あの紙 寄笑 よせて 御人へゐる のかで

所蔵

初花 この思で 此あいだから 花さんのおかみさんきつとでのみまさ
が。ぜんてへうしろから 宮さ出ちまんせん
のぐ おはりがよつの 内ぞて 紫で 花の紙
志ん きうら つうしら も 系のりんきのさ
寄笑 そうで 性のしそ めつらめ 志ぢく 女。待
人をうける 世のおちつと 見ども さまぶんく。
おまさのあく 杉山さんやおさび殿どんが
てるく 法師 をまさんじん からん したが

きんせん【雷】なのあめ〳〵ろ天きゑわるそば
いつ。あるそぐさん 隆も 要のるが あるる【初花】
陸ぐ おろみさんが あんじて 居さろ ちゃる
だろふ あるさのとく ざんを。そまふ あるん
さんは よんぷとうんが要う あるる【雷】ナセ
あ〳〵 るとこ成いつあのん【初花】こちらちうの
ようか あの〳〵ろく も行人 如ふを 買ちる
て【雷】そまふ あるちぐいの 変よ 當世わ

下ノ十七

かるふる拭 まるさのあげ結ぐいきるよせん
は母さこいろが出寸来く死のいきこの
と。如こ元と 生ふ 年ふ 猟よるろく。ま も
とげ行人るるあるくるろく。さるぐ。ろいふ
のふふ 変迎んじゃァいろ行人いる【初花】
嗜出ちこぐ でいろく でざんは
けまぐ。こく らァ きんるうこる
あこいやぐんを。そぐうちあるゆ

くるまさとかつて、ぱく、まあまりんまへござへて
も年をとつて客しやでるうきあ実は
あかりんせんかる 豪笑 あゝおもちろしのよ
ばあおいらもあんまり実をねんから
さうおゝてあんる 初花 こまそでもおれさ
からあろくがありいせん。おめへさんもさん
ご山の神にみてまさえよ。後生しなさる
あやまりいのさ 豪笑 おめへのおまる山の

神さまらぜうおやつるめまさく 初花 あまさあく
のぼさんさとよ。ト 嗚咽つめるとさるを豪笑はかわりを
こらむけ元よで初花さぐらとなりぐくろ
ちよどこも まあくろう
あまさ 数をあゝんなる ト よと文御 おもと
豪笑 おうまづ まあひの種となるう 初花 いつて
おまちろとうお座 トいふをきろう酔か八支「ときまりおまめ
の 号トケツコウ く 六えんとして
初かそくもあんどうのそのあし 次さ一節か戸のてあまの豪
殊がまえおのきがるを切るでもからの衣のやうとむりしのぜ入世は
引入て今ハおがるき脱ぬけぞり葉や肉せうか世死せんまでよ
あいれ为中とふうのちがるをあげてん生田川をまでひやうりの男ハし
これ男ハつまのと比はとかるぞれ私のあるの人しあとまで入てきく
たき風ぜいからやうの四男を今さらむかしかいくなうおあの上せが

あそうしゃくとうぐあのそぐつえいつそうろうんと
ぞのしゃくどうのあのあのあ出今一ぞ出のとまれときて
ろうまぐひけうろのまんぐのの方のよ七ろさけ
あうのめてくいまてあぐんーあげーにりたまるぞうぐよ

[ろ拍] きあぐまりであぐん 糸ぐモウをあー

あんぐうーしてあくんるんー今ろあいうん
をきるんせうら [蒙脚] ねうらあるまで
あめくちふまでいろくるを苦らうを
うけるかんまんしてくん 稲人 [ろ拍] あをまるさ
あんる変をいるをぬーのるすハ世

下ノ十九

話をすえあうまくんざんをおいくんも
けちゆもぬーのとだうういてあいて
だうういきーつさぐ。その甘くう氣病と
やうぐ。引迫であるまーさぐ。うあを
里拍きんぐ病気素ろうろと
うう。よんどまのうるくー危ざくー出さうーた
のさ [ろ拍] あふ今ぞあやァあをぐどんるを色を
あるうぐ。おまを突出さうぐうらみとろの

梅へ。さんる我から出さざゞうら。人まうら
みなさみなさんも梅へと。あきらめていやれト
(ちよくとあるく ごきげんに)［あの花］あのぜ戸をね人にぐちやあつ
なんさらう。外(ほか)の女(おかみさん)ら所ハいざこらんだ。
もしらんみちゃいてぬし(ここで)稼るかんで
とかく夢(とて)ハあやまんせん。是(これ)がらうりまつ譜(うけ)
(あい)合ざんまうら。ぞんるなら梅人夏(てて)紙あつ
せんにまるめと(なるにさの中とあつとハさしみ紙そうとのえ あやあらうてきけぢらん様とりのるどかつ)

(ちろねをなつと とくへてせうじをあけ)［この糸］あの梅(ばい)さん別(わけ)くハるなん
ほんもめうしんせん。おまづうぶ(よ)七どん
ホハよりゆうこにま［この花］このゆもうもこうしが
独(ひと)りにあやまんきて。突(つき)う夜(よ)があるさうな(ゝも)
あやまんきのめへ様(ちよ)さんもうあるんじ大きさる
(あの)某の紙なるならきるまよ久(ひさ)しぶり。さぐなら
うかしと おたげんるなんし(ト云株取りつで せうじをさてた)［この糸］
(あとみつ おちもく このごろあうらが)なぜあのまへあね人にあんせら

ざんせつ。わたしぞころしハ姉女がなりえ
から沫まされまで世話術あがちのあの
こし術。うけゆるりひろさふるなり。朝夕乃
あべあのまで。所ゝ君くゐるのの術退で
あごしてらんるんをんかりきご「コレ」妹とハおも
ひゞせんあゝらおがんで。おやんをトいひ人か
らん妹 そるめき斗りかおまかまので。今宵乃
あつぶても。あゝくしと はゝのみゝ口 そまハさつと気が

せうるて新んごとハ との余 母さくのちゝて
二十両ハあわせりんしさ。戸是をとりく
おりくおらんるんし。そしてお家さんの
京まそどう志あんりしく らん妹 さまざさあれ
ごゝて於をそ泥ぼう術のんさ女ごゝろをとふ
わかもきみそ私人自からら好きのんで
身を深川へあいめく。とハりのめのてあきみ
志ゝ私人うち。ぶんの身のしろきとくぬく

そのこの方へ出るべき揚代金を中の町ぐ
拝てくるまでこのつの。そのくやあるべき分ホ
どうくも。まづ彼で貌をくるるもの
[ろ朱]そもそもやふとくひるもで。おるさん
の身体にて見でそこでたりんは
めひ。跡ゞ四の三十両ハ二三るの内きろと
おまへのうくまでぶまで[ら朱]あるも一旦を
さうと思うさ流そうこみむんハのうて

うさようるものゝ。中せ浪人のあるべ分の
こたまつの又十あどのたそのふうら
知くとあるべ男ハのう宅きれハ已ぶ
別稼をうとゞくのうら。先こうら
身ハ流メ彼人とのきぢと義理よせまう
て。中ゝくあるべうくとあるとうちや
彼人[ろ朱]そんうくのうくゝが分をけゝ
あるべの泡とあるんしうろ[ら朱]まゝ

つんくへ性あり。そのまゝゆきまぎらるゝん
ぐぐのとゆきを為くだくぐ。お家のこけ
ゆうでもれく。破損らあぐうの宝あの
式紙。ふんぐるのせ身の為度。今以
あや人をゆきを牢。この比たらぐどもさる
道具をめくうけくぐの金紙
を附ふくく。式紙をうけて親人の報義
をきくのゆきくぐへ 同系 たくひせられて

あくまぎどもぐ。みらぬもく必ぐ夫婦ぐざんを
 雲妹 おくやとらく女房ぐ。あるぐ井くのもく庫くう
かまくそるくく式あのあくて 同系 ぐくさ国果
る要緑ゆら 雲妹 結ぐぶの祢もくらめくひ 同系
モシぐくくん甘くトらぐくくぬくうぐ 同妹 ヤアラ
そるのくくうで式くくうくくくとぐくまれば 同系 ぐ
びくくり為るぐら吹あくとあんどくゆくく
あやるくゆくぐの祢 同妹 あのくん人里拾

さんがあけくれのこゑまホイ

時鳥の声カアノ〳〵

門口のぐうヲカラ〳〵

枝ふり〳〵營る女ふ書こ一ほきん

華經を朝きゞ水をきむ蛙ろ

このあくせ行見ひ我ゆるこの兎ま

早くよびくとてるさを待人

このゝ雲雨の情ゆふるをも聖

待るも暁傘を礎をぐも無ふ

あくぐ影の涙ぬ死やひ夫婦ふ

亟山待夢一めうひくるを共宛の

完きぐうて書一遊子娘言を
後編の赤や蹠とのぞまれて
せんてゝ浦くえとトト打花は側の
深山まぎれ娘子顔美の酔丹彦
まつくぬ毫とうでいかとい顔

下ノ廿五終